

## 首里城復元のための関係閣僚会議（第2回） 議事録

日時：12月2日（月）17:15～17:30

場所：官邸4階大会議室

出席者：菅 義偉 内閣官房長官（議長）

衛藤 晟一 内閣府特命担当大臣（沖縄及び北方対策）

赤羽 一嘉 国土交通大臣

麻生 太郎 財務大臣

萩生田光一 文部科学大臣

江藤 拓 農林水産大臣

長谷川 岳 総務副大臣（代理出席）

（衛藤内閣府特命担当大臣）

ただいまから、首里城復元のための関係閣僚会議を開催いたします。構成員の皆様には、お忙しい中、お集まりいただき、ありがとうございます。

また、本日は、沖縄県の玉城知事にも御参加いただいております。玉城知事の御挨拶は、後ほど、御発言の中でいただきたいと思っております。

それでは議事に入ります。

始めに、11月25日に開催された第2回首里城復元のための関係閣僚会議幹事会の模様を私から御報告いたします。

前回の幹事会では、謝花喜一郎沖縄県副知事とこれまで復元に携われてきた高良倉吉琉球大学名誉教授から、次の御要望・御提案がございました。

謝花副知事からは、県民の首里城への様々な思いを具現化するために、御提案をさせていただきたいので、計画・検討の場への参画の機会を設けていただきたいと、御要望いただきました。

また、高良琉球大学名誉教授からは、早期復元には前回復元時の基本的な考え方を踏襲することが不可欠、前回復元時と同様、技術的な検討の場を設ける必要があると、御提案いただきました。

以上で私からの報告を終わります。

次に、萩生田文部科学大臣より御発言をお願いいたします。

（萩生田文部科学大臣）

11月15日（金）に、ユネスコ総会において、上野文部科学副大臣が日本政府代表として一般政策演説を行いました。

その中で、首里城跡における火災があったこと、首里城の復旧に全力で取り組むことの表明をいたしました。

また、ロスラー・ユネスコ世界遺産センター長との会談では、復元できる環境にあることを前提に、今回の火災で直ちに首里城の世界遺産登録に影響はないと考えられることが伝達されました。

このほか、ロスラーセンター長からは、必要に応じて専門家の派遣などの支援の用意があるとの提案や、出火原因・被害状況等が判明したらユネスコに報告してほしいとの要請がありました。

引き続き、ユネスコへの丁寧な相談・調整を行ってまいりたいと考えております。

(衛藤内閣府特命担当大臣)

続いて、江藤農林水産大臣より御発言をお願いいたします。

(江藤農林水産大臣)

沖縄の方の心のよりどころである首里城の焼失は極めて残念でありまして、沖縄の方の悲しみはいかばかりかと心を痛めております。

今後は、関係機関が連携して、復元事業の具体策が検討されていくわけですが、首里城の早期復元に向けまして、農林水産省としましても、利用可能な木材の材質や流通の状況などの情報を把握しながら、木材の調達に向けてしっかりと協力してまいりたいと考えております。

(衛藤内閣府特命担当大臣)

ありがとうございました。続いて、赤羽国土交通大臣より御発言をお願いいたします。

(赤羽国土交通大臣)

私は先日、玉城デニー沖縄県知事と一緒に、首里城の状況を視察させていただき、改めまして大きな衝撃と深い悲しみを感じました。沖縄の皆様の誇りであり、歴史と文化の象徴である首里城の復元に向けて、思いを新たにしたいところでございます。

お手元の国土交通省説明資料の1ページを御覧ください。

これは、前回復元時の基本的な考え方でありまして、例えば、首里城は過去数度にわたって再建されておりますが、「1712年に再建された正殿が戦前まで残っていたこと、そして、その間の歴史資料の根拠が比較的はっきりしていることから、1712年に再建され、1925年に国宝指定された正殿の復元を原則とする」こと等を決定しております。

高良琉球大学名誉教授は、前回復元は、現時点における首里城認識の到達水準

であり、今回の復元にあたっては、前回復元時の基本的な考え方を踏襲することが不可欠であると御提案されています。

資料の2ページを御覧ください。

これは、前回復元時に、技術的な検討の場として設置されていた、首里城正殿設計委員会の概要です。

国営公園事業として復元を行うため、沖縄総合事務局において設置したものであり、沖縄を中心とする有識者のほか、沖縄県にも参画いただき、技術的な検討を行っていました。

高良琉球大学名誉教授は、前回復元時と同様、このような技術的な検討の場を設ける必要があると提案されています。

謝花沖縄県副知事からは、県民の首里城への様々な思いを具現化するため、計画・検討の場への参画の機会を設けていただきたい、とのご要望をいただいております。

いずれにしましても、首里城の復元については、沖縄の皆さんのご要望に沿う形で進めていくことが重要であると考えております。

先日の訪問に際しては、首里城に代表される沖縄の豊かな歴史と文化、世界有数の美しい海と島々に囲まれた自然などに触れ、観光担当大臣として、無限の可能性を持つ沖縄の観光振興により一層注力していこうと、改めて決意いたしました。

来年3月26日那覇空港2本目の滑走路の供用開始、また、那覇港の国際クルーズ拠点の整備などとあわせて、首里城の復元を沖縄の観光振興に活かしていくため、首里城周辺の観光地の受入体制の強化や首里城復元の過程を見て頂くような取組みなど、県や地元のニーズを丁寧に伺いながら、きめ細やかな対応を行って参ります。

以上です。

(衛藤内閣府特命担当大臣)

ありがとうございました。続いて、玉城沖縄県知事より御発言をお願いいたします。

(玉城沖縄県知事)

首里城火災から約1ヶ月が経ちましたが、あの時の衝撃を思い起こしますと、今でも本当に胸が痛む思いになるとともに、言葉に言い表せない喪失感に包まれます。

現在、火災発生の原因究明のため、消防による現場検証が続いておりますが、県としても今回の火災の要因等については、しっかりと検証を行ってまいりた

いと考えております。

政府におかれましては、関係閣僚会議の設置など、迅速に対応して頂いた他、安倍総理におかれましても「沖縄県のご意見も伺いながら、全力で再建に取り組んでいく」との発言をされていることに対し、非常に力強く感じており、心より感謝を申し上げます。

さて、先の大戦で消失した首里城の復元整備に当たっては、沖縄の歴史・文化の象徴である首里城に対する多くの県民の思いを国及び関係機関に働きかけ、政府のご理解とご協力を賜り、平成4年・1992年の沖縄県復帰20周年記念事業として、城郭内の復元整備がなされたところであります。

前回の復元時には、実施設計などの各種委員会に、沖縄県関係の有識者が多く参画していた他、整備の段階においては、国営公園区域と県営公園区域の役割分担を明確にし、事業を推進してまいりました。

復元された首里城や琉球王国時代から伝わる染織物、漆器等の貴重な文化財は、琉球・沖縄が歩んできた歴史・文化の象徴として、また、ウチナーンチュのアイデンティティーの拠り所として、県民はもとより、多くの観光客にも親しまれてまいりました。

幾多の世代わりを経験した沖縄県にとって、首里城は琉球王国時代の祖先から受け継いできた、大切な財産であるとともに、私たちの魂とも言える、そんな存在でありました。

沖縄県では、今回の首里城火災に対し迅速かつ的確に今後の諸課題に対応するため、10月31日に首里城火災対策等本部の設置、11月7日に首里城復旧ワーキンググループの設置をいたしました。

また、11月18日には、県民の様々な思いを私自身がしっかりと受け止めた上で、スピード感を持って対応するため、知事直轄の組織として「首里城復興戦略チーム」を設置し、今後、首里城の復旧・復興に向けたロードマップの策定や、県民の間で開催されるであります復旧・復興県民会議（仮称）への対応などを含めて、進めていくこととしております。

沖縄独特の赤瓦の製造や施工等については、前回の復元の際に確立された技術が沖縄県内に蓄積、継承されている他、漆塗り技術者の育成もなされております。今後の復元に際しましては、多くの県民から、これらの伝統技術の活用を期待する声があがっていることから、是非ご配慮頂ければと思っております。

まとめといたしまして、沖縄県としましては、首里城の復元に向けて、様々な課題がありますが、国等関係機関との役割分担や協力のあり方なども含め、県民の皆様の声をしっかりと受け止め、一日も早い首里城の復元に向けて、多くの県民が未来に向かって、希望を持って歩んでいけるような、そういう取り組みを進めてまいりたいと考えております。

また、県民の首里城への様々な思いを具現化するために、ご提案をさせて頂きたいと思っておりますので、計画・検討の場への参画の機会を是非設けて頂きたいと思っております。

結びになりますが、首里城の復旧・復興の早期実現に向けて、より一層の御理解と御協力をどうぞよろしくお願い申し上げます。ありがとうございます。

(衛藤内閣府特命担当大臣)

ありがとうございました。ここまでの御説明を踏まえ、意見交換に移ります。まず私から発言いたします。

先ほど私から概要を御説明いたしました 11 月 25 日の幹事会における沖縄県及び有識者の方の御提案を受けて、これまで復元に携わってきた沖縄の有識者の方を中心とした技術的な検討を行う場を沖縄総合事務局に設け、速やかに、沖縄の地において、技術的な検討に入りたいと考えております。

については、沖縄県からも技術的な検討の場に参画いただくなど、御協力いただきたいと考えておりますが、いかがでございましょうか。

(玉城沖縄県知事)

私からも一言申し上げたいと思っております。

今回、政府が首里城復元に向けた技術的検討委員会を設置することに対しましては、大変大変感謝申し上げます。ありがとうございます。

また、委員に県内の有識者、協力委員としては沖縄県が参画する機会を設けていただきましたことに対しても、重ねて御礼申し上げます。

首里城の復元に向けては、関係機関との役割分担や協力の在り方等も含め、県民の皆さんの声をしっかりと受け止め、国及び県がお互いに連携・協力しながら取り組んでいく必要があると考えております。

是非、技術的検討委員会に沖縄県からも参加させていただき、県民の皆さんの思い等を反映させていきたいと考えておりますので、よろしくお願い申し上げます。

(衛藤内閣府特命担当大臣)

このほかにご発言ございませんでしょうか。

(麻生財務大臣)

木材に CLT を使うのか。

(和泉内閣総理大臣補佐官)

まだ決まってはならず、こういった木材が良いか今後技術的検討を進めてまいります。

(衛藤内閣府特命担当大臣)

他にご発言ございませんでしょうか。

それでは、最後に菅内閣官房長官から御挨拶をお願いしますが、プレスが入りますのでしばらくお待ちください。

それでは、菅内閣官房長官から御挨拶をいただきます。

(菅内閣官房長官)

本日は、関係大臣から首里城の復元に向けた検討を急いでいる旨の報告があり、さらに、玉城沖縄県知事から首里城の早期復元に向けたご提案などを伺いました。

本日の議論を踏まえれば、復元に際しては前回復元時の考え方に沿って、首里城をしっかりと再現していくことが重要であり、その方向で、この会議において、首里城復元に向けた基本的な方針を速やかにとりまとめたい、このように考えます。

関係大臣は、引き続き密接に連携をし、財源措置を含め、早期復元に向けて必要な措置を講じていくとともに、観光振興など地元のニーズに対応した施策を推進していただきたいと思います。

また、復元に必要な技術的な検討については、前回復元時と同様に、これまで復元に携わってきた沖縄の有識者の方を含めた技術的検討を行う場を沖縄総合事務局に設け、国交省をはじめとする関係省庁と連携しつつ、沖縄県にも参画をいただいて、速やかに検討に入ることをとしたいと考えております。

首里城は、沖縄の皆さんの誇りとも言える、極めて重要な建造物です。政府として、引き続き沖縄県や地元の方々のご意見を伺いながら、国営公園事業である首里城の復元に向けて、責任を持って取り組んでまいります。

(衛藤内閣府特命担当大臣)

ありがとうございました。プレスは退室願います。

それでは、本日の首里城復元のための関係閣僚会議は、これで閉会したいと存じます。お忙しい中、どうもありがとうございました。